

3) 備蓄されている用品・食料等に関する情報発信の事例

備蓄されている用品・食料等に関する情報発信量の多い事例（図5）として、法政大学があげられる。他の大学に比べ、備蓄品に関する情報が細かく、写真で示されているため、情報が分かりやすく表示されている。飲食物については、平日の登校予定の学生及び教職員の数をもとに、500mlのペットボトル（水）と、非常食（栄養補助食品）を3日分揃えている。そのほか、体温計、消毒液、絆創膏、ガーゼ、包帯、三角巾などの簡単な応急手当が出来る「救急バッグ」や災害時の避難誘導用ヘルメットとビブスも備蓄していることが、HPに記載されている。

備蓄されている用品・食料等に関する 情報発信量の多い事例

◇法政大学 主な災害用設備や備蓄品の一部

飲食物	非常食、飲料水
居住	簡易トイレ、アルミ製保温シート・毛布、ブルーシート、手指消毒液
救急	万能茶、つるはし、ハンマー、ボール、スコップ、油圧ジャッキ
医療	救急箱、AED（自動体外式除細動器）、担架



災害時の避難誘導用
ヘルメットとビブス



体温計、消毒液、絆創膏、
ガーゼ、包帯、三角巾な
どの簡単な応急手当が
出来る「救急バッグ」

平日登校予定の学生数及
び教職員の数をもとに、
500mlのペットボトル（水）と、
非常食（栄養補助食品）を3
日分揃えている。

サイト：<https://www.hosei.ac.jp/hosei/tonikumi/bousai/bitikuhin/>

図5 備蓄されている用品・食料等に関する情報発信量の多い事例

4) 地域の行政機関、住民組織等との連携が明示

千代田区と「大規模災害時における協力体制に関する基本協定」を締結している大学は、16校中、10校であった。一方、文京区と協定を締結している大学は、15校中6校であった。文京区では、「災害時における相互協力に関する協定」を結んでいる学校は7校あり、そのうち大学は5校であった。また、帰宅困難者対策については、「災害時における相互協力に関する協定」を結んでいる協力先は6か所であり、そのうち大学は文京学院大学の1校であった。しかし、特設サイトへのリンクが記載されていたのは、31校中、2校（法政大学と明治大学）であった。

行政機関との連携について表示している大学は、協定を結んでいるという責任と使命感が高く、大学の意識が高いのではないかと考えられる。

5) 帰宅困難者（地域の方）への対応

帰宅困難者（地域の方）への対応が示されていたのは、31校中、1校（法政大学）のみであった。具体的には、千代田区との協定より、対応可能な範囲で地域住民および一般の帰宅困難者の受け入れと情報・食糧・飲料水提供を行うことになっている。学生や教職員が協力し、帰宅困難者を支援していくために、帰

宅困難者に対する情報を普及・啓発していく必要があると考える。

6) 大学からの情報発信の好事例

① 専修大学

地震発生後の行動をフローチャートとして示され、災害時の歩行速度や日の出、日没時間が記載されている。地震後、帰宅するか、避難場所に行くかを判断できる地図も掲載されている。災害時交通機関が長時間不通となった場合に、徒歩で帰宅する目安の距離は 20 km以内とされている。専修大学は、地震発生後に、落ち着いて行動するための判断材料が記載されるマニュアルをまとめていることが特徴である。

専修大学 (千代田区) 大地震対応マニュアル

地震発生直後の行動をフローチャートで記載

学生・教職員を対象に『Yahoo! 安否確認サービス』を利用した安否確認システムを導入

地震発生直後 → 揺れがおさまったら → 落ち着いたら① → 落ち着いたら②

地震発生直後 → 揺れがおさまったら → 落ち着いたら① → 落ち着いたら②

YES 家族との安否確認
NO 家族との安否確認

YES 自宅へ帰る
NO 大学へ避難

災害時の歩行速度や日の出、日没時間が記載されている

月日	日の出	日没
3月20日	05:45	17:53
6月20日	04:25	19:00
9月20日	05:27	17:41
12月20日	06:46	16:31

地震後、帰宅するか、避難場所に行くかを判断するための地図

校舎から20kmの地図
※災害時交通機関が長時間不通となった場合に、徒歩で帰宅する目安の距離は20km以内とされている。

大学HP: <https://www.senshu-u.ac.jp/campuslife/support/disaster-response.html>

② 日本大学

地震発生直後からの行動が、ポイントごとに記載されている。応急手当では、それぞれ手順と絵があるため、分かりやすい。日本大学は、千代田区では他の大学にはない、震度とマグニチュードの違いや想定される地震としてどんな地震が考えられるか等、基礎知識が記載されていることが特徴である。防災情報として、震度やマグニチュードを知った時、それがどんな災害をもたらすのかを考えることができる。

日本大学 (千代田区) 学生のための地震防災ガイド

地震発生直後からの行動が、ポイントごとに記載

最初の散怖

揺れが収まったら

避難したら

消防や救急の支援

応急手当

1) やけど 2) 多量の出血 3) 骨折 4) 意識不明から心臓蘇生

想定される地震

震度とマグニチュード

地震とマグニチュードの違いや想定される地震として、どんな地震が考えられるか等、地震の基礎知識が記載

大学HP: https://www.chs.nihon-u.ac.jp/wpchs/wp-content/themes/chs/img/disaster_prevention_message/lifeguide.pdf

③ お茶の水女子大学（文京区）

HPの上部に項目が挙げられ、クリックすると、自分が探したい情報をスムーズに検索でき、マニュアルのPDFファイルが貼られている。マニュアルにはパーソナルメモ記入欄もあり、氏名や住所だけでなく、持病、常備薬、アレルギー等を記入して身につけておくことができる。さらに、緊急避難アイテムという項目があり、日常・非常時の備えとして必要だと考えられるものが細かく記載されている。落ち着いたら安否情報システムを用いて大学へ安否を知らせることも促されている。

④ 拓殖大学（文京区）

災害発生または地震警戒宣言が発令された場合の人命確保、被害軽減を図るためのマニュアルが、学生用と、教職員用に分けて作成されている。緊急地震速報を利用した緊急非常放送設備の設置の他、災害時の避難経路・場所の確保や食料の備蓄について記載されている。Jアラート（弾道ミサイル発射）作動時の対応や、新型コロナウイルスについて記載され、防災の一環として位置づけられている。

⑤ 跡見学園女子大学（文京区）

HPには、大地震対応マニュアル、地震発生時、地震発生から避難までに分かれている。大地震マニュアルは別の小冊子として、「大地震とは」「地震発生から避難まで」「日頃の準備」「大学の対応」「安否連絡」「帰宅判断」等に見出しをつけながら、まとめられている。大地震とは何をさすのか、学内の避難場所とともに、近隣の避難場所が明示されている。日ごろから、自宅から大学まで、大学内で確認すべき箇所があげられる。その中には帰宅ルートや所要時間の確認を促し、便利なアイテムも紹介されている。

The image shows a PDF document titled "跡見学園女子大学（文京区）大地震マニュアル". It contains several sections:

- 大地震とは**: A table with information about earthquakes, including their magnitude, indoor/outdoor status, and safety instructions.
- 地震発生から避難まで**: A flowchart showing the steps from earthquake occurrence to evacuation, including "地震発生", "揺れが収まった", "帰宅判断", and "自宅から帰宅するルート".
- 日頃の準備**: A list of items to prepare for earthquakes, such as "避難場所の確認", "避難経路の確認", and "防災グッズの準備".

At the bottom, it states "学内の避難場所、近隣の避難場所が明示" and provides the website URL: <https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html>.

以上のように、HPでの防災情報も、デジタル機器が使うことができない場面を想定し、携帯することを目的に、一部は小冊子の形でPDFが掲載されている大学も多くみられた。

4. 考察

1) 大学のHP等での防災情報として組み込むべき要件

本研究の結果を踏まえて、大学のHP等での防災情報として組み込むべき要件を抽出した（図6）。

第1に、大学側から、そして、学生自身による安全確保のための情報である。学生が対応すべき発災時、防災（準備）情報に加え、大学が対応すべき発災時、防災（準備）情報の両面がある。学生が対応すべき事項は、災害発生時での適切な対応が中心であるが、大学側は事前の防災行動が中心であり。その準備状況について、HPを用いて発信していくことが必要である。また、地震だけでなく、火災・集中豪雨等の水害等の情報、新たに必要とされるJアラート（弾道ミサイル発射）作動時の対応や、新型コロナウイルスについて記載も加味されてきている実態から、そうした視点も組み込んでいく必要性が明らかになった。

第2に、学生自身が帰宅困難者になった場合の対応や、地域の方が帰宅困難者になった場合の支援の方法の両面についての情報も必要である。この帰宅困難な状況であるか、否かを総合的に判断する情報源を提示することが望まれる。

第3に、行政機関や外部の団体との連携、そして、学生ボランティアの育成と地域活動への参加に関する情報について、もっと掲載されていくことが望まれる。HPの防災情報に、区と協定を結んでいることを示している大学が少ないことが明らかになった。この千代田区の基本協定の中には、学生ボランティア

の育成があり、大学との連携により、学生ボランティアの協力や大学施設を活用することができれば、区の災害対策を進めていくうえで、重要かつ有効な資源となる。そのためには、まず、大学のHPに行政機関との協定について普及啓発を行い、防災について学生ボランティアの認知度を上げることも必要である。

大学において防災に関するセクションと、学生ボランティアに関するセクション、そして、地域連携に関するセクションが独立していることが多く、HPにおいても一体的に情報の提供が行われていない。近隣の避難場所の提示をしていくと共に、HPの防止情報を通して、発災時には大学生が災害ボランティアとして活躍していく姿勢を育んでいくことも必要であろう。

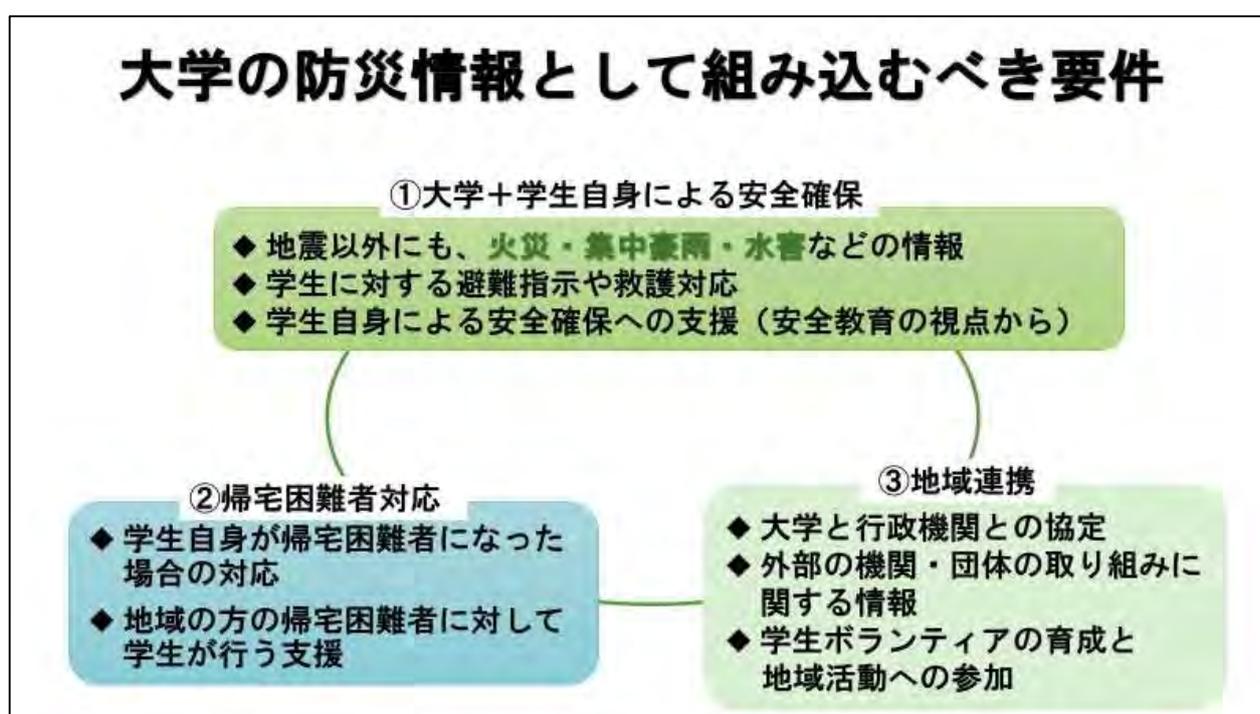


図6 大学の防災情報として組み込むべき要件

2) 学生にとって、HP以外の情報源

本研究では、大学のHPによる防災情報の発信の方法を検討してきたが、学生の情報源としては、Twitter等SNSでの防災に関する情報も多く収集されている。多様な情報源の特徴を踏まえ、補完しながら、学生が活用できる工夫が求められる。

内閣府でも、防災対策における新たなテクノロジーの活用を進めるための施策を検討する「防災×テクノロジー」タスクフォースを、令和2年2月13日に設置し⁹⁾、SNSやAI技術等を活用した災害対応が検討されている。災害リスク・避難情報の提供については、AIを活用した防災チャットボットによりスマートフォンを通じて、「一人一人の状況を考慮した、適切な避難行動を促す情報の提供」や「住民等から現地の災害情報の収集」を行えるよう、更なる技術開発・実証実験等が実施されていく予定である。

大学からの防災情報も新たな情報源、情報機器への橋渡しをするものであることが望まれる。

3) 地域防災の教育ツールとしての大学のHP

これまでの研究でも、具体的な防災行動を起こすためには、単に防災に対する知識や関心を持つだけでなく、災害に対するリスク認知を中核とした、より明確な防災意識を高める必要性が指摘されている。被害の深刻さの認知は防災行動に影響を与えることが先行研究でも報告されている^{10) 11)}。今回の大学のHPは「日頃の備え」のための知識を持つための情報源としての役割が大きく、被害の深刻さを認知することができる情報を発信することを目的としている大学は少なかった。

これまでも、防災意識を高め、正確な知識を得るため、これまで多くの防災教育が実践されてきた。防災教育の大きな発展は、阪神淡路大震災翌年の1998年学習指導要領の改訂を契機としており、かつて扱っていたの小さかった防災教育が見直され、現在はその重要性が広く認知されている¹²⁾。防災教育は人々の防災意識を高め、防災行動を促すことを主たる目的に掲げているが、地域の特性や問題点、そして過去の被災経験を知ることが重要であるため¹³⁾、実際の内容は様々である。

このようなことから、大学のHPを通じた情報発信により、学生自身が自らの生活と共に、地域の防災に目をむけ、防止意識と高くするためにも、首都圏の大学生に身近であるべき帰宅困難者支援などのように地域防災を意識した情報発信や、過去の被害経験や、被害の深刻さを認知することができる情報の発信へとつなげていくことが重要であると考えられる。

本研究事業は帰宅困難者支援の教育ツールの開発を目指しているが、こうした防災教育の展開事例等をHPによって発信することが、より動きのある、学生自身の主体的な学びと支える情報ツールになると考える。

5. 要約

大学がどのような防災情報を学生に提供しているのか、千代田区・文京区の31大学からの情報発信の内容の分析を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

- 1) 学生にむけた発災後の行動が67.7%と、HPでの表示率が高かった。帰宅困難時の対応事項に関する表示率は20%弱、帰宅ルートを作成等と呼びかけるHPは見られなかった。
- 2) 情報は地震への対応が中心で、水害・火災等に関する情報は少なかった。
- 3) 防災マニュアル等の詳細な記載のある大学がある一方で、HPに1行の情報だけの大学もみられ、情報の質と量に差が大きくなった。
- 4) 地域の方への帰宅困難者の対応についての情報は、法政大学(千代田区)の1校のみであった。
- 5) 学生に向けた情報に比べ、教職員に向けた情報が少なく、5校にとどまった。学生ボランティアの活用等が防災情報と共に表示されているHPはなく、大学での防災情報のあり方についての検討も課題である。

謝辞

本論文をまとめるにあたり、分析等については、人間栄養学部人間栄養学科 久保樹理 田中海帆さんの協力を得た。ここに感謝する。

文献

- 1) 内閣府：令和3年版防災白書—第1部 我が国の災害対策の取組の状況等，第1章 災害対策に関する施策の取組状況，http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/r3_all.pdf，2022年3月11日閲覧
- 2) 内閣府：防災に関する世論調査（平成29年11月調査），
<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-bousai/index.html>，2022年3月11日閲覧
- 3) 後藤裕美，石川孝重，伊村則子，吉村敦子：都心キャンパスに通う大学生の地震防災に対する認識と行動に関する研究—その1 アンケート調査の概要と地震防災に関する知識—，日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画），pp.441-442，2004年8月
- 4) 後藤裕美，石川孝重，伊村則子，吉村敦子：都心キャンパスに通う大学生の地震防災に対する認識と行動に関する研究—その2 地震・防災に関する意識と体験に注目した分析—，日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画），pp.443-444，2004年8月
- 5) 山口裕子，久木章江，石川孝重，伊村則子：防災力を高めるための防災教育に関する研究—その7 都心に通う大学生を対象とした地震に対する意識と行動力に関する調査—，日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画），pp.767-768，2005年9月。
- 6) 伊村則子：武蔵野大学における防災情報に関する研究 その1 大学から提供されている情報の分析，武蔵野大学人間関係学部紀要，第5号，pp.47-56，2008年3月1日。
- 7) 伊村則子：武蔵野大学における防災情報に関する研究 その2 学生アンケート調査に基づいた防災啓発リーフレットの提案，武蔵野大学人間関係学部紀要，第6号，pp.205-212，2009年3月18日。
- 8) 伊村 則子：武蔵野大学における防災情報に関する研究(その3)，学生・教職員を対象にしたホームページの提案，武蔵野大学環境学部紀要（1），31-38，2010
- 9) 内閣府：令和3年版防災白書—特集 新型コロナウイルス感染症の影響下における災害対策，第2章 さらなる災害対策の拡充，第4節 「防災×テクノロジー」の取組，
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/r3_all.pdf，2022年3月11日閲覧
- 10) McNeill, I. M., Dunlop, P. D., Heath, J. B., Skinner, T. C., & Morrison, D. L. : Expecting the unexpected: predicting physiological and psychological wildfire preparedness from perceived risk, responsibility, and obstacles. *Risk analysis*, 33 (10), 1829-1843, 2013.
- 11) Miceli, R., Sotgiu, I., & Settanni, M. : Disaster preparedness and perception of flood risk: A study in an alpine valley in Italy. *Journal of environmental psychology*, 28 (2), 164-173, 2008
- 12) 内閣府：令和3年版防災白書—第1部 我が国の災害対策の取組の状況等，第1章 災害対策に関する施策の取組状況，附属資料61 学習指導要領等における主な防災教育関連記述，
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/r3_all.pdf，2022年3月11日閲覧
- 13) 防災教育普及協会：地域における防災教育の実践に関する手引き，第2章 防災教育を実践するにあたって，16-17，2015